

はじめに

これまで、どれだけ迷って生きてきたことか。人生どれだけ悩んで、揺れたことか。その度に誰かの言葉、誰かの文章、そして誰かの親切に救われてきました。自然からも多くの事を学びました。時に、何かを悟ったと勘違いして、もう大丈夫だと思ったこともあります。しかしそんな見せかけの悟りはいとも簡単に揺らぎ、迷いの中に舞い戻る自分がいました。その繰り返しで、ここまで生きてきたように思います。そして、もうすぐ古希を迎える僕です。ここへ来て、少しは見えてきたのかなあ。生きる意味と自分に与えられた仕事みたいなものが。この本を書いているのも、その仕事のひとつです。

僕が迷った時、悩んだ時、揺れた時、そんな時に心の支えとなり、羅針盤のように方向を示してくれたいくつかの物語を、ここに紹介します。物語といっても、本の中の物語もあれば、直接ご本人から伺ったエピソードやその人の言動から僕が感じ取った話も

あります。そして僕自身の物語や、思い出に残る旅の話もあります。

これらの物語が、これまでの僕と同様、人生に戸惑う多くの人にとって自分を見つめ直し、自分を受け入れ、人生の軸を作るためのヒントになるなら、こんなに有り難いことはありません。では、自分の物語から始めたいと思います。